

嵯峨狂言堂 修復募金の お願い

嵯峨大念佛狂言（以下、嵯峨狂言）は京都・嵯峨釈迦堂の名で知られる清涼寺の法会に行われます。鎌倉時代末期に京都で高僧円覚十萬上人が、踊念仏のような形で身振り手振りで仏の教えをわかりやすく説くために始めた京の三大狂言（壬生・えんま堂）の一つで、以来、嵯峨の地域で受け継がれてきました。狂言古面には天文十八年（1549）の銘があり、歴史の古さがしのべられます。演じられるのはお松明（三月）、大念仏会（四月）円覚忌（十月）。「夜討曾我」「羅生門」などの能風のカタモンと称される十二番と「愛宕詣」「餓鬼角力」などの狂言風のヤワラカモンという十二番の計二十二番の演目が残っています。壬生狂言（壬生寺）や千本狂言（千本えんま堂）に比べ、土のにおいがするおらかな演技が特徴とされています。昭和60年（1985）国の重要無形民俗文化財に指定されました。その嵯峨狂言が行われる狂言堂は明治34年（1901）に現在地に移設されましたが、京都府・市文化財保護課の指導による建物調査では瓦屋根の老朽化や損傷も著しく倒壊の恐れも懸念され、緊急の修復が必要とされました。平成28年（2016）11月1日付で平成30年（2018）にかけての嵯峨狂言堂修復工事の着工許可が文化庁から出されました。修復工事にあたり皆様のご寄付を募っております。

ご寄付は清涼寺でも募っておりますが、振り込みでもお願いいたします。嵯峨大念佛狂言保存会の継承・存続につながる狂言堂修復寄付金をお願いします。

嵯峨大念佛狂言保存会

事業期間：平成28年11月1日より平成30年8月末

予算額：7,200万円

振り込み口座：京都銀行嵯峨支店 口座番号 4311871
サガダイネンブツキョウゲンホゾンカイ宛まで。
一口1,000円からでお願いします。

通信欄：「嵯峨狂言堂修復寄付金」とお書きください。



狂言堂全景（江戸期の様式に修復される）



「釈迦如来」の一場面